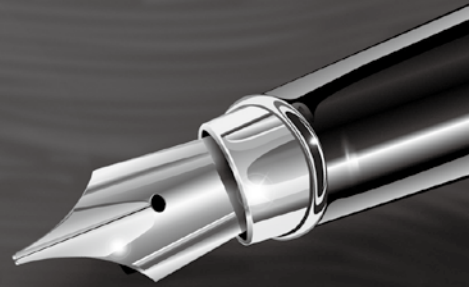




# 車退避計画のすすめ



国立研究開発法人  
防災科学技術研究所 特別研究員

島崎 敢

突然ですが、あなたが車を止めている場所は大雨で浸水する可能性がありますか？

私たちは普段、災害が起きた時に身近な場所がどんな状態になるのかをあまり想像してみません。しかし、災害はある日突然やってきて、私たちの平穏な生活をいとも簡単に壊してしまいます。

災害には事前の備えが重要だということはよく知られています。だからちよつと意識の高い人なら、家具を固定したり、水や食料を備蓄したり、家族の集合場所を決めたりしていることでしょう。しかし車は意外と盲点です。うちはマンションの上の方だから洪水になっても大丈夫、と思っているあなた、駐車場は1階ですよ。

9月に起きた常総市の洪水では、たくさんの方が床上まで浸水し、畳や家財が使えなくなりました。同様にたくさんの方が車が水没して使えなくなったわけですが、家と車は根本的に事情が異なります。家は動かすことができないので、洪水警報を聞いてもそこに置いて逃げるしかありません。一方、車は簡単に動かすことができるので、洪水警報を聞いて安全な場所に退避させておけば簡単に守ることができます。

個人が愛車を失うことは悲しいことですが、車を使っている事業者は悲しいだけでは済まされません。常総市の洪水で水に浸かった関東鉄道バス水海道営業所では、営業所にあつたほとんどのバスをうまく浸水域外に退避させることができたので、災害後もすぐに運行を再開することができました。しかし、退避に失敗していたら、復旧には莫大な費用と時間がかかり、もたもたしている間に客足も遠のいてしまったかもしれません。

災害対策の進んだ日本では堤防は減多に決壊しないので、

ていたら、浸水域外に車の退避場所を見つけておきましょう。それから、そこまでするべく浸水域を通らずに行くルートも考える必要があります。雨が降る場所によって、水がやってくる方向が変わるかもしれません。退避先やルートは複数調べておいたほうが良いでしょう。事業者の場合は、誰が運転するのか、駐車場まで乗ってきた従業員の自家用車をどう退避させるのかなどの段取りも考え、職場のみんなまで情報共有しましょう。訓練ができればベターです。

うちの車はボンコツだから、沈んでもいいや、とお考えのあなた、買ったばかりの高級車よりはショックは少なそうですが、あなたの家が被災してしまった時には、車はさしあつたりのシエルターになってくれたり、復旧作業に役に立つたりするので、ボンコツでも守ってあげてくださいね。幸い浸水域に入っていないあなたが、駐車場が地下や半地下なら安心はできません。目の前のコインパーキングに動かすだけで車を守ることができるかもしれませんよ。うちは建物も駐車場も高台にあるので大丈夫と考えているあなた、災害は洪水だけではなく、大雨が降れば土砂崩れのリスクも高まります。大地震で駐車場が液化化したりするかもしれません。火山噴火に高潮に豪雪、日本は災害大国です。それぞれの災害のハザードマップを見て、駐車場をよく行く場所、そこまでのルート上にどういう危険があるかを知っておいてください。災害に対する備えと安全運転は似ています。大丈夫だろうと思うのではなく、想像力を働かせて「かもしれない」と思いましょ。普段の安全運転に加えて車退避計画を立てることで、大切な愛車を守りましょ。ただし、あくまでも車よりも人命優先をお願いしますね。

(しまぎき・かん)



イラスト・本田敦子

水が高いところから低いところに流れることは誰でも知っています。しかし、車は私たちユーザーに坂を意識させない乗り物です。もちろん、急な坂道は車に乗っていても実感することができませんが、街なかの緩やかな坂は車に乗っているとほとんど気づきません。また、浸水するかどうかは周囲の地形との関係もあるので、標高だけでは決まりません。だから、ここが危なくて、どこが安全なのかを国や自治体が公開しているハザードマップで調べてみてください。地名と「ハザードマップ」という単語を入れてネットで検索すればすぐに見つけることができます。これを見れば浸水域とそれ以外は一目瞭然。もし自分の駐車場が浸水域に入っ

